

## ● 2次元波動方程式を解くための準備をしよう。

では次、2次元波動方程式の解法についても解説しよう。ただし、その前段階として、“2重フーリエサイン級数”などの公式についても教えておく必要があるので、ここでまとめて解説しておこう。

まず、 $k, j$ を自然数とするとき、次の公式が成り立つことは大丈夫だね。

$$\int_0^L \sin \frac{k\pi}{L} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L} x dx = \begin{cases} \frac{L}{2} & (k=j \text{ のとき}) \\ 0 & (k \neq j \text{ のとき}) \end{cases} \quad \dots\dots (*1)$$

この三角関数の性質が、2重フーリエサイン級数展開の基になるんだね。この(\*1)が成り立つことを確認しておこう。

(i)  $k=j$  のとき、

$$\begin{aligned} \int_0^L \sin \frac{k\pi}{L} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L} x dx &= \int_0^L \sin^2 \frac{k\pi}{L} x dx \\ &= \frac{1}{2} \int_0^L \left( 1 - \cos \frac{2k\pi}{L} x \right) dx = \frac{1}{2} \left[ x - \frac{L}{2k\pi} \sin \frac{2k\pi}{L} x \right]_0^L = \frac{L}{2} \end{aligned}$$

となる。

公式：

$$\sin^2 \theta = \frac{1 - \cos 2\theta}{2}$$

(ii)  $k \neq j$  のとき、

$$\int_0^L \sin \frac{k\pi}{L} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L} x dx = -\frac{1}{2} \int_0^L \left\{ \cos \frac{(k+j)\pi}{L} x - \cos \frac{(k-j)\pi}{L} x \right\} dx$$

$$= -\frac{1}{2} \left\{ \cos \left( \frac{k\pi}{L} x + \frac{j\pi}{L} x \right) - \cos \left( \frac{k\pi}{L} x - \frac{j\pi}{L} x \right) \right\}$$

公式：

$$\sin \alpha \sin \beta = -\frac{1}{2} \{ \cos(\alpha + \beta) - \cos(\alpha - \beta) \}$$

$$= -\frac{1}{2} \left[ \frac{L}{(k+j)\pi} \sin \frac{(k+j)\pi}{L} x - \frac{L}{(k-j)\pi} \sin \frac{(k-j)\pi}{L} x \right]_0^L = 0 \text{ となる。}$$

以上(i)(ii)より、(\*1)が成り立つことが示せたんだね。

そして、この(\*1)の公式を利用することにより、次の“2重フーリエサイン級数”の展開公式を導くことができるんだね。

## ● 2重フーリエサイン級数展開もマスターしよう！

それでは次、2変数関数  $f(x, y)$  のフーリエサイン級数展開についても解説しよう。今回は、 $0 \leq x \leq L_1$ 、 $0 \leq y \leq L_2$  の範囲で定義された区分的に滑らかな2変数関数  $f(x, y)$  を三角関数  $\sin \frac{k\pi}{L_1} x$  と  $\sin \frac{j\pi}{L_2} y$  ( $k, j$ : 自然数) の積の無限級数で展開することにする。これを“2重フーリエサイン級数”(double Fourier sine series) と呼ぶ。

### 2重フーリエサイン級数

$0 \leq x \leq L_1$ 、 $0 \leq y \leq L_2$  の範囲で区分的に滑らかな2変数関数  $f(x, y)$  は次のように2重フーリエサイン級数(2重フーリエ正弦級数)に展開できる。

$$f(x, y) = \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y \dots\dots\dots (*2)$$

ただし、 $b_{kj} = \frac{4}{L_1 L_2} \int_0^{L_1} \int_0^{L_2} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y dx dy \dots\dots (*2)'$   
 $(k = 1, 2, 3, \dots, j = 1, 2, 3, \dots)$

1変数関数  $f(x)$  のフーリエサイン級数のときと形式的には同様なので、覚えやすいと思う。それでは、 $f(x, y)$  が (\*2) の右辺のようにフーリエサイン級数に展開されるとき、その係数  $b_{kj}$  ( $k = 1, 2, 3, \dots, j = 1, 2, 3, \dots$ ) が (\*2)' により求められることを示しておこう。

$$f(x, y) = \sum_{k=1}^{\infty} \left( \underbrace{\sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{j\pi}{L_2} y}_{c_k(y)} \right) \sin \frac{k\pi}{L_1} x \dots\dots (*2) \text{ から、}$$

$$c_k(y) = \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{j\pi}{L_2} y \dots\dots \textcircled{1} \text{ とおくと、}$$

①の右辺は  $j = 1, 2, \dots$  とし、その無限級数をとるので、結局  $k$  と  $y$  の式になる。よって、これを  $c_k(y)$  とおいた。

(\*2) は、 $f(x, y) = \sum_{k=1}^{\infty} c_k(y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x \dots\dots \textcircled{2}$  となる。ここで、公式：

$$\int_0^L \sin \frac{k\pi}{L} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L} x dx = \begin{cases} \frac{L}{2} & (k = j) \\ 0 & (k \neq j) \end{cases} \dots\dots (*1) \text{ を用いると、}$$

P197

(i) ①の両辺に  $\sin \frac{j\pi}{L_2} y$  をかけて、積分区間  $0 \leq y \leq L_2$  で  $y$  により積分すると、

$$\begin{aligned} & \int_0^{L_2} c_k(y) \sin \frac{j\pi}{L_2} y dy \\ &= \int_0^{L_2} \sin \frac{j\pi}{L_2} y \left( b_{k1} \sin \frac{\pi}{L_2} y + b_{k2} \sin \frac{2\pi}{L_2} y + \cdots + b_{kj} \sin \frac{j\pi}{L_2} y + \cdots \right) dy \\ &= b_{kj} \int_0^{L_2} \sin^2 \frac{j\pi}{L_2} y dy = \frac{L_2}{2} b_{kj} \quad \text{となる。} \quad \leftarrow \text{公式(*1)を用いた。} \end{aligned}$$

$$\therefore b_{kj} = \frac{2}{L_2} \int_0^{L_2} c_k(y) \sin \frac{j\pi}{L_2} y dy \quad \cdots \cdots \textcircled{3}$$

(ii) ②の両辺に  $\sin \frac{k\pi}{L_1} x$  をかけて、積分区間  $0 \leq x \leq L_1$  で  $x$  により積分すると、

$$\begin{aligned} & \int_0^{L_1} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x dx \\ &= \int_0^{L_1} \sin \frac{k\pi}{L_1} x \left\{ c_1(y) \sin \frac{\pi}{L_1} x + c_2(y) \sin \frac{2\pi}{L_1} x + \cdots + c_k(y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x + \cdots \right\} dx \\ &= c_k(y) \int_0^{L_1} \sin^2 \frac{k\pi}{L_1} x dx = \frac{L_1}{2} c_k(y) \quad \text{となる。} \quad \leftarrow \text{公式(*1)を用いた。} \end{aligned}$$

$$\therefore c_k(y) = \frac{2}{L_1} \int_0^{L_1} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x dx \quad \cdots \cdots \textcircled{4}$$

以上 (i)(ii) より、④を③に代入すると、次のように  $b_{kj}$  を求める (\*2)' の公式が導けるんだね。

$$\begin{aligned} b_{kj} &= \frac{2}{L_2} \int_0^{L_2} \left( \frac{2}{L_1} \int_0^{L_1} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x dx \right) \sin \frac{j\pi}{L_2} y dy \\ &= \frac{4}{L_1 L_2} \int_0^{L_1} \int_0^{L_2} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y dx dy \quad \cdots \cdots (*2)' \end{aligned}$$

この 2 重フーリエサイン級数の展開公式：

$$u = f(x, y) = \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y \quad \cdots \cdots (*2)$$

$$\left( b_{kj} = \frac{4}{L_1 L_2} \int_0^{L_1} \int_0^{L_2} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y dx dy \quad \cdots \cdots (*2)' \right)$$

により， $xyu$  座標空間上の曲面  $u = f(x, y)$  ( $0 \leq x \leq L_1$ ,  $0 \leq y \leq L_2$ ) を 2 重フーリエサイン級数で展開できることになったんだね。

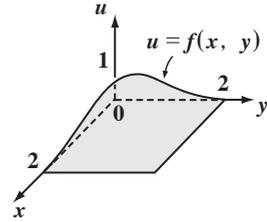
では，次の例題で早速練習してみよう。

**例題 24**  $0 \leq x \leq 2$ ,  $0 \leq y \leq 2$

で定義される次の 2 変数関数

$u = f(x, y)$  を 2 重フーリエサイン級数に展開してみよう。

$$f(x, y) = \frac{1}{32} x(2-x)y(2-y) \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$



$0 \leq x \leq 2$ ,  $0 \leq y \leq 2$  で定義された 2 変数関数  $f(x, y) \cdots \textcircled{1}$  は，(区分的に) 滑らかな関数なので，公式  $(*2)$ ， $(*2)'$  を用いて次のように 2 重フーリエサイン級数に展開できる。

$$f(x, y) = \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$L_1 = L_2 = 2$  を  $(*2)$ ， $(*2)'$  に代入したもの

$$b_{kj} = \frac{4}{2 \cdot 2} \int_0^2 \int_0^2 \underline{f(x, y)} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y dx dy \quad \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1} \quad \left( \frac{1}{32} (2x - x^2)(2y - y^2) \quad (\textcircled{1} \text{より}) \right)$$

ここで， $\textcircled{3}$  に  $\textcircled{1}$  を代入してまとめると，

$$b_{kj} = \int_0^2 \int_0^2 \frac{1}{32} (2x - x^2)(2y - y^2) \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y dx dy$$

$$= \frac{1}{32} \underbrace{\int_0^2 (2x - x^2) \sin \frac{k\pi}{2} x dx}_{\text{これを } \lambda_k \text{ とおく}} \cdot \underbrace{\int_0^2 (2y - y^2) \sin \frac{j\pi}{2} y dy}_{\text{これを } \lambda_j \text{ とおく}} \quad \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで、④の右辺の2つの定積分をそれぞれ

$$\begin{cases} \lambda_k = \int_0^2 (2x - x^2) \sin \frac{k\pi}{2} x dx & \cdots \cdots \textcircled{5} \\ \lambda_j = \int_0^2 (2y - y^2) \sin \frac{j\pi}{2} y dy & \cdots \cdots \textcircled{5}' \end{cases}$$

⑤と⑤'は、積分変数が  $x$  と  $y$  で異なっても、同じ積分で  $k$  と  $j$  のみが異なるので、それぞれ  $\lambda_k, \lambda_j$  とおいた。

とおくことにしよう。⑤、⑤'は本質的に同

じ積分なので、⑤のみを求めれば、その結果の  $k$  に  $j$  を代入したものが、⑤'の積分結果になるんだね。

では、⑤の定積分を、部分積分法を用いて求めてみよう。

$$\lambda_k = \int_0^2 (2x - x^2) \left( -\frac{2}{k\pi} \cos \frac{k\pi}{2} x \right)' dx$$

部分積分法

$$\int_0^2 f \cdot g' dx = [f \cdot g]_0^2 - \int_0^2 f' \cdot g dx$$

$$= -\frac{2}{k\pi} \left[ (2x - x^2) \cos \frac{k\pi}{2} x \right]_0^2$$

$$+ \frac{2}{k\pi} \int_0^2 (2 - 2x) \cos \frac{k\pi}{2} x dx$$

部分積分法の2連発!

$$\int_0^2 f \cdot g' dx = [f \cdot g]_0^2 - \int_0^2 f' \cdot g dx$$

$$= \frac{4}{k\pi} \int_0^2 (1 - x) \cdot \left( \frac{2}{k\pi} \sin \frac{k\pi}{2} x \right)' dx$$

$$= \frac{8}{k^2 \pi^2} \left[ (1 - x) \sin \frac{k\pi}{2} x \right]_0^2 - \frac{8}{k^2 \pi^2} \int_0^2 (-1) \sin \frac{k\pi}{2} x dx$$

$$\begin{aligned} \because \sin \frac{k\pi}{2} \cdot 2 &= \sin k\pi = 0 \\ \sin 0 &= 0 \end{aligned}$$

$$= \frac{8}{k^2 \pi^2} \int_0^2 \sin \frac{k\pi}{2} x dx = \frac{8}{k^2 \pi^2} \left( -\frac{2}{k\pi} \right) \left[ \cos \frac{k\pi}{2} x \right]_0^2$$

$$= -\frac{16}{k^3 \pi^3} \left( \underbrace{\cos k\pi}_{(-1)^k} - \underbrace{\cos 0}_1 \right) = \frac{16\{1 - (-1)^k\}}{\pi^3 k^3} \cdots \cdots \textcircled{6} \quad \text{となる。}$$

同様の計算をして、⑤'の積分は

$$\lambda_j = \frac{16\{1 - (-1)^j\}}{\pi^3 j^3} \cdots \cdots \textcircled{6}' \quad \text{となる。}$$

$\lambda_k$  の  $k$  に  $j$  を代入したものが  $\lambda_j$  となる。



とおけるものとする。(b)を(a)に代入して、

$X \cdot Y \cdot \ddot{T} = X''YT + XY''T$  となる。この両辺を  $XYT$  で割ると、

$$\frac{\ddot{T}}{T} = \frac{X''}{X} + \frac{Y''}{Y} \dots\dots(c) \text{ となる。}$$

↑  
 $t$  のみの式     $x$  と  $y$  のみの式

(c)の左辺は  $t$  のみ、右辺は  $x$  と  $y$  のみの式なので、この等式が恒等的に成り立つためには、これはある定数  $\alpha$  と等しくなければならない。

ここで、 $\alpha \geq 0$  は不適である。

よって、 $\alpha < 0$  より、

$\alpha = -\omega^2$  ( $\omega > 0$ ) とおくと、(c)は、

$$\frac{\ddot{T}}{T} = \frac{X''}{X} + \frac{Y''}{Y} = -\omega^2 \dots\dots(c)'$$

新たに  $-\omega_1^2$      $-\omega_2^2$  とおく。

ここで新たに、 $\frac{X''}{X} = -\omega_1^2$ ,  $\frac{Y''}{Y} = -\omega_2^2$

( $\omega_1^2 + \omega_2^2 = \omega^2$ ) とおくと、

(c)' より、次の 3 つの常微分方程式が導かれるんだね。

(i)  $X'' = -\omega_1^2 X \dots(d)$

(ii)  $Y'' = -\omega_2^2 Y \dots(e)$

(iii)  $\ddot{T} = -\omega^2 T \dots(f)$

(i)  $X'' = -\omega_1^2 X \dots(d)$  は、単振動の微分方程式より、その解は、

$X(x) = A_1 \cos \omega_1 x + A_2 \sin \omega_1 x$  だね。

境界条件:  $u(0, y, t) = u(2, y, t) = 0$

より、 $X(0) = A_1 = 0$ ,  $X(2) = A_2 \sin 2\omega_1 = 0$

$k\pi$

よって、 $A_1 = 0$ ,  $\omega_1 = \frac{k\pi}{2}$  ( $k = 1, 2, 3, \dots$ ) となる。

$\therefore X(x) = A_2 \sin \frac{k\pi}{2} x \dots\dots(g)$  となるんだね。大丈夫？

・  $\alpha > 0$  のとき  
 $\frac{X''}{X} = \alpha_1$ ,  $\frac{Y''}{Y} = \alpha_2$  ( $\alpha_1 + \alpha_2 = \alpha$ )  
 とおくと、 $\alpha_1$  と  $\alpha_2$  のいずれか一方は必ず正となる。今、 $\alpha_1 > 0$  とすると、 $X'' = \alpha_1 X$  ( $\alpha_1 > 0$ ) より、  
 特性方程式:  $\lambda^2 - \alpha_1 = 0$ ,  $\lambda = \pm \sqrt{\alpha_1}$   
 $\therefore X(x) = A_1 e^{\sqrt{\alpha_1} x} + A_2 e^{-\sqrt{\alpha_1} x}$   
 となる。ここで、境界条件:  
 $u(0, y, t) = u(2, y, t) = 0$  より、  
 $A_1 = A_2 = 0$  となって、不適。  
 $\alpha_2 > 0$  のときも同様に不適。  
 ・  $\alpha = 0$  のとき  
 $\alpha_1 = \alpha_2 = 0$  の場合も考えられる。  
 このとき、 $X'' = 0$  より、 $X(x) = px + q$   
 同様に境界条件より、 $p = q = 0 \therefore$  不適。

$u(0, y, t) = u(2, y, t) = 0$   
 $X(0)Y(y)T(t)$      $X(2)Y(y)T(t)$   
 より、 $X(0) = X(2) = 0$  となる。

(ii)  $Y'' = -\omega_2^2 Y$  ……(e) も単振動の微分方程式より, その解は

$$Y(y) = B_1 \cos \omega_2 y + B_2 \sin \omega_2 y \text{ となる。}$$

$$\text{境界条件: } u(x, 0, t) = u(x, 2, t) = 0$$

$$\text{より, } Y(0) = B_1 = 0, Y(2) = B_2 \sin 2\omega_2 = 0$$

$$\left( \frac{j\pi}{2} \right)$$

$$\text{よって, } B_1 = 0, \omega_2 = \frac{j\pi}{2} \quad (j = 1, 2, 3, \dots)$$

$$\therefore Y(y) = B_2 \sin \frac{j\pi}{2} y \text{ ……(h) となるんだね。}$$

$$\begin{aligned} u(x, 0, t) &= u(x, 2, t) = 0 \\ X(x)Y(0)T(t) &= X(x)Y(2)T(t) \end{aligned}$$

より,  $Y(0) = Y(2) = 0$  だね。

(iii)  $\ddot{T} = -\omega^2 T$  ……(f) も単振動の微分方程式より, その解は,

$$T(t) = C_1 \cos \omega t + C_2 \sin \omega t \text{ ……(i) となる。これを } t \text{ で微分して,}$$

$$\dot{T}(t) = -C_1 \omega \sin \omega t + C_2 \omega \cos \omega t$$

$$\dot{T}(0) = C_2 \omega = 0$$

$$\text{よって, } C_2 = 0 \quad (\because \omega > 0)$$

また, (i)(ii) の結果より,

$$\omega^2 = \omega_1^2 + \omega_2^2 = \frac{k^2 + j^2}{4} \pi^2$$

$$\left( \frac{k\pi}{2} \right)^2 + \left( \frac{j\pi}{2} \right)^2$$

$$\therefore \omega = \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi$$

よって, (i) は,

$$T(t) = C_1 \cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi t \text{ ……(j)}$$

以上 (i)  $X(x) = A_2 \sin \frac{k\pi}{2} x$  ……(g), (ii)  $Y(y) = B_2 \sin \frac{j\pi}{2} y$  ……(h)

$$\text{(iii) } T(t) = C_1 \cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi t \text{ ……(j) より,}$$

(a) の微分方程式の独立解  $u_{kj}(x, y, t)$  は,

$$u_{kj}(x, y, t) = b_{kj} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \cdot \cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi t \text{ ……(k)}$$

( $k = 1, 2, 3, \dots, j = 1, 2, 3, \dots$ ) となるんだね。

$$\begin{aligned} \text{初期条件:} \\ u_i(x, y, 0) &= 0 \text{ より,} \\ X(x)Y(y)\dot{T}(0) &= 0 \end{aligned}$$

$\dot{T}(0) = 0$  だね。

そして、この(k)を2重に重ね合わせた2重フーリエサイン級数を  $u(x, y, t)$  とおくと、これもまた(a)の解となる。よって、

$$u(x, y, t) = \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \cdot \cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi t \dots\dots(1)$$

ここで、 $t=0$  のとき、(1)は、

$$\begin{aligned} u(x, y, 0) &= \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \cdot \underbrace{\cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi}_{\cos 0 = 1} \cdot 0 \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \dots\dots\dots(1)' \end{aligned}$$

ここで初期条件：

$$u(x, y, 0) = \frac{1}{32} (2x - x^2)(2y - y^2)$$

より、(1)'の係数  $b_{kj}$  は、2重フーリエサイン級数の公式(\*2)'より、

$$b_{kj} = \frac{4}{2 \cdot 2} \int_0^2 \int_0^2 \underbrace{u(x, y, 0)}_{\frac{1}{32} (2x - x^2)(2y - y^2)} \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y dx dy \quad \text{①}$$

2重フーリエサイン級数の公式 (P198)

$$f(x, y) = \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} b_{kj} \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y \dots\dots\dots(*2)$$

$$b_{kj} = \frac{4}{L_1 L_2} \int_0^{L_1} \int_0^{L_2} f(x, y) \sin \frac{k\pi}{L_1} x \cdot \sin \frac{j\pi}{L_2} y dx dy \dots\dots(*2)'$$

今回は  $L_1 = L_2 = 2$   
 $u(x, y, 0) = f(x, y)$   
 として

$$= \frac{1}{32} \int_0^2 (2x - x^2) \sin \frac{k\pi}{2} x dx \cdot \int_0^2 (2y - y^2) \sin \frac{j\pi}{2} y dy$$

$$\lambda_k = \frac{16\{1 - (-1)^k\}}{\pi^3 k^3} \quad \lambda_j = \frac{16\{1 - (-1)^j\}}{\pi^3 j^3}$$

これは、例題 24(P200) で既に求めたね。

$$\therefore b_{kj} = \frac{8}{\pi^6} \cdot \frac{1 - (-1)^k}{k^3} \cdot \frac{1 - (-1)^j}{j^3} \dots\dots(m)$$

(m)を(1)に代入すると、(a)の2次元振動の方程式の解  $u(x, y, t)$  が、

$$u(x, y, t) = \frac{8}{\pi^6} \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty} \frac{1 - (-1)^k}{k^3} \cdot \frac{1 - (-1)^j}{j^3} \cdot \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \cdot \cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi t$$

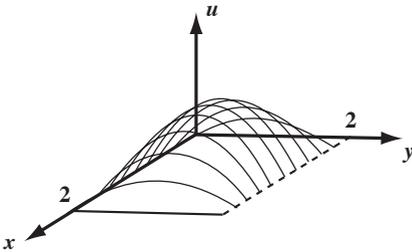
と求まるんだね。

ここで、この正方形の2次元振動膜の振動運動の様子を実際に調べてみよう。もちろん、2重の無限級数 $\left(\sum_{k=1}^{\infty} \sum_{j=1}^{\infty}\right)$ なんて求めることはできないけれど、

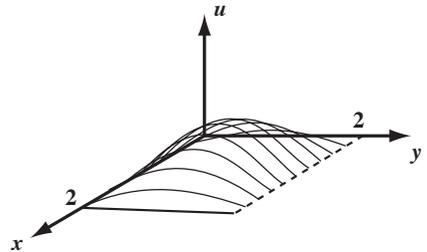
それぞれ初めの15項ずつとったものを、この解の近似値として、つまり、
$$u(x, y, t) \doteq \frac{8}{\pi^6} \sum_{k=1}^{15} \sum_{j=1}^{15} \frac{1 - (-1)^k}{k^3} \cdot \frac{1 - (-1)^j}{j^3} \cdot \sin \frac{k\pi}{2} x \cdot \sin \frac{j\pi}{2} y \cdot \cos \frac{\sqrt{k^2 + j^2}}{2} \pi t$$

として、 $t = 0, 0.4, 0.8, 1.2, 1.6, 2, 2.4, 2.8$ のときの振動膜の様子を図(i) ~ (viii)に示す。ただし、振動の様子を見やすくするために、 $u$ 軸方向の変位は誇張して大きく示している。本当は、微小な変位の振動なんだね。

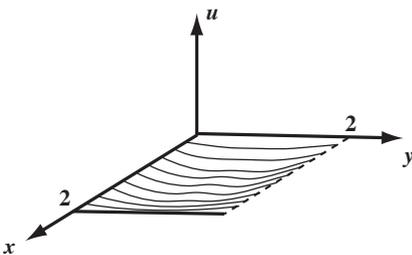
(i)  $t = 0$



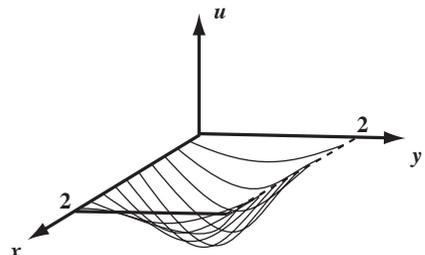
(ii)  $t = 0.4$



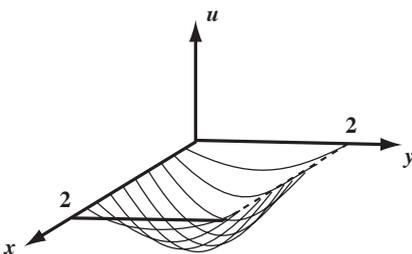
(iii)  $t = 0.8$  のとき



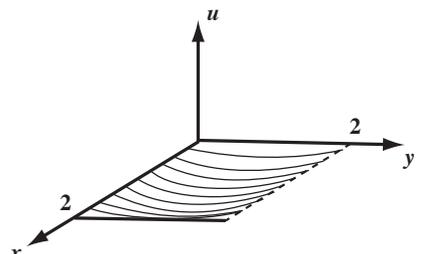
(iv)  $t = 1.2$  のとき

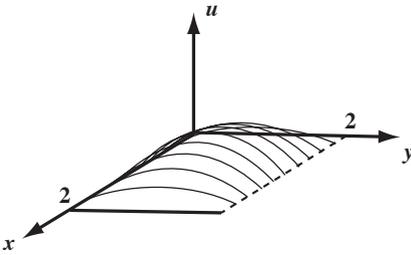
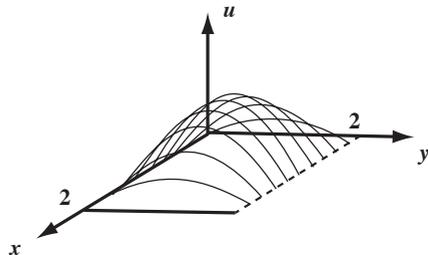


(v)  $t = 1.6$  のとき



(vi)  $t = 2$  のとき



(vii)  $t = 2.4$  のとき(viii)  $t = 2.8$  のとき

どう？ 1 辺の長さ 2 の正方形の膜が振動している様子が見事に描き出されているね。計算は結構大変だったけれど、興味をもって頂けたと思う。

以上で、「フーリエ解析キャンパス・ゼミ 改訂 1」の講義はすべて終了です。ここまで読み進んでくるのは大変だったと思う。でも様々な理論的な解説も入れてはきたけれど、たくさんの具体的な問題を、グラフを使って詳しく解説してきたから、ご理解頂けたと思う。

このフーリエ解析は数学と物理学の接点になっており、いずれの面から見ても面白く、実り豊かな分野になっているんだね。だから大変だったけれど、楽しみも大きかったはずだ。

“フーリエ解析”は内容が豊富なため、まだまだみなさん達が学ぶべき重要な分野がたく山残っている。これまで解説した、三角関数による直交関数系以外にも直交関数系があり、これらが、円形の境界条件や、球面上の境界条件の問題を解く上で、重要な働きを演ずるんだ。

これらの内容については「偏微分方程式キャンパス・ゼミ」で、また楽しく親切に解説しているので、是非これで勉強して頂きたい。でも、先を急ぐことはない。まずその前に、この「フーリエ解析キャンパス・ゼミ 改訂 1」をよく復習して、シッカリマスターすることだ。ステップ・バイ・ステップに実力を伸ばしていくことが理想だからね。

それでは、次の講義でまた会おう！ それまでみなさん、お元気で…。

マセマ代表 馬場 <sup>けいし</sup>敬之  
高杉 豊